

シンポジウム特集

# 「日本文明の一大恩人」 前島密考

2019年5月25日、郵政博物館では、前島密没後100年を記念して開催された「鴻爪痕—HISOKA MAEJIMA—」展（会期：2019年4月19日～6月16日）と連動し、シンポジウムを開催した（裏面参照）。本誌では、当シンポジウムの登壇者3名に依頼してパネル報告に基づく論考を寄せていただき、今号の特集とした。当館研究活動にご協力いただいた執筆者各位に感謝申し上げます。

---

## 郵政博物館シンポジウム 「日本文明の一大恩人」 前島密考

### 開催概要

日時：2019年5月25日（土）13：15～16：45

場所：郵政博物館 多目的スペース

主催：郵政博物館



### 登壇者

#### パネル報告

石井寛治

（東京大学名誉教授／第1分科会主査）

杉浦勢之

（青山学院大学総合文化政策学部教授／  
第3分科会主査）

井上卓朗

（郵政博物館館長兼首席資料研究員／  
第1・第5分科会）



### 内 容

郵政博物館の分館である前島記念館は、前島密が誕生した上野家の屋敷跡（新潟県上越市）にあり、同記念館の隣には前島密の生誕記念碑が残されている。その碑の裏には前島密の功績と人柄をたたえる碑文が刻まれており、その最初の一文が「日本文明の一大恩人がここに生まれた」である。このシンポジウムでは、前島密が「日本文明の一大恩人」と評価されたのはなぜなのか、果たして前島密は「日本文明の一大恩人」であったのかどうかについて考え、議論することでその真実に迫ることをテーマとした。まず青山学院大学教授杉浦勢之氏（司会兼任）より開会挨拶および登壇者の紹介があり、続いて東京大学名誉教授石井寛治氏、杉浦勢之氏、郵政博物館館長井上卓朗が明治維新期における前島密について講演を行い、その後のパネルディスカッションにおいて、文明開化の担い手としての前島密をどのように位置づけ、また評価することができるかについて考察した（参加者は40名）。

---